



第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／福原 洋子 岡山県教育庁生涯学習課 企画推進班
向 智章 大分県教育庁社会教育課社会教育班 社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 学校の中にある公民館の学社融合―「のぞみがおか生楽館」の生涯学習まちづくりプログラム― 10:50~11:20

松熊小和子（福岡県小郡市生涯学習課地域活動指導員【のぞみがおか生楽館 前館長】）

児童数1,300名弱の小学校に併設された公民館がハード・ソフト両面における学社融合事業を展開して10年。「地域を知って楽しむ事業」、「自分を高める事業」、「青少年育成事業」、「地域をつなげる事業」の4領域で各種プログラムを実践してきた。校区内関係機関の行事日程を調整し、個別事業の重複を防ぎ、「事業」と「ひと」のネットワーク化に重点を置いている。学社融合の最終目標は子ども支援と多世代交流である。

2 官民協働の「有明海総合講座」の企画・運営・出前・押し掛け・情報発信―知る、楽しむから行動へ― 11:25~11:55

荒牧 軍治（佐賀県 NPO法人有明海ぐるりんネット 代表理事）

「NPO有明海ぐるりんネット」、「NPO有明海再生機構」、県の有明海・自然環境課が協働して、学校教育、社会教育等県内各種教育機関を会場とした表題のような広報・啓蒙活動を行っている。主要テーマは有明海に存在する貴重な生物、食材、風景等、各種の魅力を発見し、楽しむことであり、有明海保全のために行動する人材を発掘・育成することを目的としている。主催講座の企画、要望に応じた講師の派遣を基本任務としている。情報誌「有明海」は今年度で4号を迎える。

3 「待つ図書館」から「打って出る図書館」へ―生涯学習・研修事業と組み合わせた館外貸し出し出前・協働事業の実験― 12:00~12:30

船原 文野（鳥取県大山町立図書館 館長）

「打って出る」とは従来の図書館機能を社会教育的に拡充して「集客」営業に力点を置く事を意味している。例えば、図書の館外出前、図書館を拠点とした各種体験活動の実施などである。具体的には、町内の生涯学習事業へ図書資料を出前し、「館外貸し出し」を実施した。これまでの出前の対象は人権教育研究会、生涯学習大会、親学の会、高齢者の会などであるが、加えて、地元企業の休憩時間を活用した「貸し出し営業」も行なっている。また、「図書館を拠点とするプログラム」として、「工作遊び」、「科学遊び」、「料理教室」などを行ない来館者の「図書館体験」を推進している。